

随筆

熟練工

今年は酉年で例年以上に鶏の記事が紙上をにぎわしている。その中に昨年末の懸案となっている移出鶏卵の取引改善のことがある。本県の卵の取引は大阪市場を除いては考えられぬ位であるが、近年この市場での本県の卵の評判は余り芳しくない。その理由は煎じつめると次のようになるらしい。即ち卵そのものの質はいいが、荷造り包装、輸送などに難点があるといわれている。そこで昨年来県は大阪経済事務所の非常な骨折りによって、関係者と対策を協議した結果、移出鶏卵を出荷団体が自主的に検査して、自らの努力によって市場の信用を回復することにしよう。そのために出荷団体を一丸とした岡山県移出鶏卵検査協会というようなものをこさえて、箱も新しくし、マークも統一し、電気焼の妻板として、荷を揃えてまとめて出荷しようということに大体話がまとまりかけている。対岸の香川など新しい生産地では新箱に統一して急速に成績を挙げていて、先進地をもって任ずる本県の有力な競争者となっている。北海道も逸早く新容器を使って実績を挙げているともきいている。本県がモタモタしていると今に追い越されてしまいそうだ。何事によらずどうも新しいものの方が古いよりも切り換えが鮮やかなようである。

最近和牛の肥育が一そう重要性を増してきた。農業経営を有利に導くため、和牛の能力利用上、適地に肥育を盛んにすることは和牛の生産県である本県としても当然必要となって来る。そして本県の場合3-4才の若いヌキの短期肥育がよかろうと言われているが、このヌキの肥育の際、肥育に取りかかる直前甲状腺を半分だけ取り除いて置けば仕上りの肉質がよくなって高く売れるので肥育経験上有利だということが試験の結果などから立証されて、今や実用化の段階に来ている。ところが本県ではなかなか普及しにくい。その原因は農家が今までに或程度肥育の経験をもっているもので、前述のような新しい技術に対して無条件で飛びつきにくいということがあろう。本県よりズッと新しく肥育を始めている富山県ではこの新し

い技術は相当の普及率をもっているということだ。ここでも卵の場合と同じことが言えるのではないか。

最近の酪農の発達が目ざましい。農家にとって乳牛を飼うことは和牛を飼うことより新しい技術であり、殊にジャージーにおいて然りである。とすればこれらの飼い方一例えば濃厚飼料の与え方一つをとり上げて比較して見ても一和牛の方が当然進んでいなければならない筈であるが、事實は反対に乳牛の方が進歩していて無駄が少く、和牛の方に無駄が多いのではないかと想像される。ジャージーなど初めて飼う農家は技術者の指導を忠実に守るので農家の技術的水準は着々向上していると言われている。

一般的に言って新しいものはいつも積極的に物事を改善しようとする意欲が盛んであり、古いものはこの反対の場合が多いようだ。経験は尊い。しかし馴れによって物事を滞りなく処理するだけでは迫力に乏しい。たえず新しいものを求めて前へ進まねばならぬ。殊に技術的な面から創造という字を除いたら極めて弱い存在となるだろう。日進月歩の甚しいこの頃、何事によらずわれわれは古い範囲だけに止まらないで、たえず新しい感覚を持ち続けたいものだ。熟練工として満足してはもはや進歩は希めない。

近頃2-3の問題をとり上げて平素われとわが身をむちうたねばと考えていることを思いつくままちょつと。(M・H)